

がん予防のススメ Vol.84

多発性骨髄腫

骨痛や貧血が治らない場合には



徳島大学病院
輸血・細胞治療部 副部長

三木 浩和氏

多発性骨髄腫
は、白血球の一種

である形質細胞が骨髄内で腫瘍性に増殖し、M蛋白と呼ばれる異常な免疫グロブリンを産生する血液のがんです。高齢者に多い病気であり、本邦でも人口の高齢化に伴い発症率が増加傾向です。本疾患では骨がもろくなり、腰痛などの骨痛や脊椎の圧迫骨折をもたらすことがあります。また異常形質細胞の増加により、正常血球が減少し、貧血をきたすことがあります。M蛋白の増加により腎障害も出現します。初発症状としては、骨の痛みが多く、また検診の際に貧血を指摘され、発見されることもあります。原因不明の骨痛や貧血があれば多発性骨髄腫を疑う必要があり、かかりつけの先生にご相談ください。



徳島大学病院 がん相談支援センター

がんの相談はこちらへ 相談窓口 Tel.088-633-9438

がん診療連携センター

<https://www.tokudai-ganrenkei.jp>



徳島がん対策センター

<https://www.toku-gantaisaku.jp>